

(別記様式)

令和6年度 府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育目標「よく学びより鍛えそしてよりよく挑め」を達成するため、特別支援教育を通して、学習指導要領や学校教育の重点に基づき、指導及び実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <p>(1) 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。</p> <p>(2) 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。</p> <p>(3) 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により、自立と社会参加を目指す。</p> <p>2 学力の充実</p> <p>個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。</p> <p>3 心身の育成</p> <p>(1) 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切にす心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 「医療との連携・協働」 隣接する医療機関との連携・協働の下、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを進めた。5類移行をふまえつつ、地域社会をはじめとする外部の人的資源を活用し、ホームページ等を通じて広報に努めた。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の推進」 従前の取組に加え、保護者居住地の居住地校との一層の交流を進めた。行永分校児童の「学び」の場になったことに加え、訪問先小学校の同学齢児童にとっても、有益適切な学びの一助となった。</p> <p>3 「キャリア教育の推進」 PTA共催の社会福祉施設見学研修や12年間を見通した進路指導計画を作成することができた。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>1 「医療との連携・協働の下で個に応じた指導の深化」 5類移行後も感染対策を講じながら、児童生徒の実態に応じ人的資源を有効に活用し、個別最適な学びの保障に努める。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の深化」 広い視野から、児童生徒の新たな学びの場として居住地校を含めた様々な連携を深め、児童生徒の啓発的体験や気づきを深化させることに努める。</p> <p>3 「保護者等に信頼される学校づくり」 各々の児童生徒が自らの障害の特性に応じて、その可能性を十分に開花させ、様々な学習場面で頑張る様子をホームページなどに掲載し、リモート配信に加えて、保護者参加型の授業参観などの機会を充実させる。</p> <p>4 ICT機器の活用による学習の拡充 ICT機器等を有効に活用し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを一層進め、児童生徒の最善の学びとなるように創意工夫を図る。</p> <p>5 実態に応じた適切な教育課程の編成 個別最適な学びの充実に向けて、児童生徒にとっての実態に応じた効果的な教育課程の編成に努める。</p>	<p>1 健康管理や感染対策等、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に一層努める。</p> <p>2 地域などの小学校・中学校との交流も含め、交流及び共同学習、更に児童生徒の実態に応じ、居住地校交流を進めたり、外部の人的資源を活用したりすることにより、児童生徒の社会的自立を促す。</p> <p>3 児童生徒の様々な学習場面をホームページに適宜掲載するなど、積極的な情報発信に努め、教育活動の理解の促進を図る。</p> <p>4 ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、児童生徒にとっての最善の学びとなるように創意工夫を図る。</p> <p>5 個別最適な学びの一層の深化を図り児童生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し一人一人を伸ばす授業づくり、授業改善に努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	1 児童生徒の社会的自立を促し、児童生徒、保護者、地域から信頼され、地域と繋がる学校運営の推進	(1) 地域などの小学校・中学校との交流に加えて交流及び共同学習、児童生徒の実態に応じた居住地校交流や外部の人的資源を活用し学校行事等の教育活動を充実させる。	A	A	A	◆従前の交流及び共同学習や居住地校交流に加え、重度重複部門と準ずる部門との部門間交流を充実させ、学習効果を高めることができた。
		(2) 各種会議を充実させ、分掌間及び教職員間の連携を図り、児童生徒の一層の実態把握に努めるとともに学習環境の整備を図る。	A			◆主として、教育相談会議の充実を図り、迅速な支援体制の構築に努めた。日常の校務におけるteamsの活用や業務改善が進んだ。
		(3) 児童生徒にとっての個別最適な学びの一層の深化に繋がるような職場環境の整備に努める。	B			◆児童生徒の障害の特性に応じて外部の人的資源を有効活用し、企業人材や「介護等体験」大学生、看護学生等の実習を受け入れ、児童生徒の有益な学びの一助となった。また、HPのプログラムの更新による「見える化」や「行永再発信」ワークショップ研修を実施した。
	2 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携を進める。	(1) 5類移行をふまえ、健康管理や感染対策等を講じながら、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に努める。	A	B		◆安心・安全な学びを保障する観点から、各種行事への医療職派遣等を実施した。また、5類移行をふまえ、各種行事などの充実を図った。
(2) 参観日や懇談会、学校行事、PTA行事などを活用して、対面に加え、オンライン機器なども活用し、関係機関との連携を図る。		B			◆保護者が児童生徒と協働する「授業」を充実させた。また、保護者の意向をふまえ、PTA共催の各種研修会を複数回開催した。また、学校祭や遠足などの各種行事の保護者参加を促した。	
事務部	1 児童生徒の深い学びを実現可能とする支援	(1) 学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、安心・安全な環境づくりに努める。	B	B	B	◆消耗品等において、主に児童生徒の学習に必要な物品の購入に努めた。
		(2) 教材教具の新規購入や更新を行い、学習環境の維持向上に努める。	B			◆施設の点検等を通して、今後の維持管理のための見通しを立てることができた。

小学部 中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力の育成	(1) 関係分掌との連携を深め、必要に応じて支援方法を工夫したり、支援機器等を活用したりして、安全と健康に留意し、教育活動を進める。	A	B	B	<p>◆児童生徒の日々の健康状態や活動について養護教諭や保健部、医療センターの医師・看護師や関係職員等と連携し、心身の状況を共有しながら丁寧に取り組を進めることができた。児童生徒の移乗について自立活動担当と連携し、積極的にリフトを活用することができた。</p> <p>◆児童生徒の実態に合わせた教育課程を編成し、担任・教科担任・自立活動担当、前籍校等と連携しながら学習指導を行うことができた。</p> <p>◆(課題)療育センターでの長期欠席が続く児童について環境や体調が許すならば、面会や訪問学習が行えたらよい。</p> <p>◆前籍校や家庭と連携し、復学に向けて学校として組織的な対応及び支援をしていくことが大切。(できている部分もあるが、課題でもある)</p>
		(2) 医療機関及び関係機関との連携を密にし、心身の状態に応じた教育活動を充実させる。			B	<p>◆療育センターのリハビリ担当等専門的な助言をもらう機会や研修を通して、個に応じた指導や活動の充実を図ることができた。校外学習等大きな行事では、センターの看護師を派遣して頂き、無事終えることができた。</p> <p>◆(課題)センターでの日課や活動、排泄時間を知らせてもらうことで、より生徒理解を深められると考える。</p>
	2 主体的に学ぶ力の育成と個別最適な学びによる基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、個に応じた取組や指導を行う。			B	B

小学部 中学部 【再掲】	2 主体的に学ぶ力の育成と個別最適な学びによる基礎学力の向上 【再掲】	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、個に応じた取組や指導を行う。【再掲】			B	
		(2) キャリア教育の視点からの実践により、将来を展望する力を育成する。(小学部)	B			◆キャリア教育の視点を加味しながら校外学習に取り組んだ。今後も繋げていく。
		(3) キャリア教育の視点に基づいて、希望進路実現に向けた指導を進める。(中学部)	B			◆キャリア教育の視点を持ち、卒業後の姿をイメージした学習に取り組んだ。(作業学習的な内容であるペットボトルリサイクル)
		(4) ICT機器等の活用を進め、児童生徒の主体性を引き出し、個別最適な学びにつながる授業づくりを進める。 (4) ICT機器等の活用を進め、児童生徒の主体性を引き出し、個別最適な学びにつながる授業づくりを進める。【再掲】	B			◆リモート等を活用し、校内の重度重複児童生徒や院内の児童、前籍校と合同で授業を行い、児童が意欲的・主体的に活動する場を設定することができた。個に応じた支援機器(スイッチ、タブレット端末)を活用した教育を進めることができた。児童生徒の興味関心を広げたり児童生徒の主体性を高める授業を行ったりするために情報教育部と連携してICTの活用を進めた。 ◆教科指導等で、ICT機器を活用することができた。(準)
	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 全ての教育活動を通して道徳性を養い、自己共に思いやる力を育成する。	B	A		◆仲間同士を意識した場面の設定(教室の配置)や声かけ等を丁寧に行ない、集団意識や所属意識を育み、友達を思いやる心を育てることができた。教科の学習やゆきぶん集会等で、いろいろな人と関わり、友達を意識して活動することができた。またそれらを通して、友達のよさに気づいたり、お互いの気持ちを尊重したりすることができた。
		(2) 学校内外の人とのかかわりや、活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。		A		◆計画的に居住地校と交流したり、校外学習等で公共施設の利用機会を設けたりして、児童のコミュニケーション能力や社会性を意識した活動を行うことができた。(小) ◆生活単元学習では、全校の指導者や友達と関わる場面を設定することで、やりとりの力をつけることができた。今後は校外学習を行

小学部 中学部 【再掲】	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成【再掲】	(3) 学校内外の人とのかかわりや、活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。 【再掲】	A	A	い、校外の方とも繋がれる場を設定していく。(中) ◆三笠小学校との交流やAETとの交流では、ねらいに沿った取組をすることができた。 (小)青葉中学校との交流会では、お互いの発表を見たり、卓球バレーや風船バレーをしたりして交流を深めることができた。(中)
		(4) 他校との交流及び共同学習や校外学習等での公共施設の利用等により、児童生徒の豊かな体験活動を通して社会性を養う。	A		
教務部	1 学習指導要領に基づいた児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施	(1) 各教科等を合わせた指導において、教科の視点を踏まえた個別の指導計画を作成する。	A	A	◆個別の指導計画だけでなく、年間指導計画（年間単元配列）を作成する際に各教科等を合わせた指導では該当教科名を記入するようにした。 ◆準ずる学級において、自立活動専任教員による指導を進めた。 ◆研究部や自立活動部が中心となって、行永分校に在籍する児童生徒の実態に合った「流れ図」の作成を試作し、実施に向けて検討を進めた。 ◆『キャリアパスポート』検討委員会を立ち上げ、来年度からの実施に向けて進めた。 ◆学期末に教材庫等の整理整頓を行った。保管場所と教材のリストを一部作成できた。 ◆転出入児童生徒に関わる個々の書類業務について、準ずる学級・重複学級共通でチェックリストを作るなど確認システムを整理改善している。 ◆校務システムの導入については調整中。
		(2) 自立活動担当者や関係機関と連携し、個々の教育的ニーズと自立活動の内容との関連性を明確にした指導の構築を図る。	B		
		(3) 児童生徒の実態に合った『キャリアパスポート』作成に向け、研究を進める。	A		
	2 学習環境の整備・充実と校務の円滑化	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。	A	B	
		(2) 部内の業務内容を整理し、校務の円滑化を図る	B		
		(3) 校務システム等、業務の効率化に向けた取組を進める。	B		
生徒指導部	1 基本的生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の取組を基盤にして、友だちや役割を意識した集団活動を進める。	A	A	◆全校集会では、レクリエーションを中心とした活動や学習発表等を通して学級の枠を超えて交流する場を設定することができた。 ◆校内での役割を意識した活動として重度重複障害部門では給食献立の張替活動に取
		(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育む。	A		

生徒指導部 【再掲】	1 基本的な生活習慣の形成・確立 【再掲】					り組んだ。自治活動は、児童生徒の実態に応じた内容を引き続き検討していく。 ◆交通安全指導では、舞鶴警察署の職員に本校頂き、児童生徒の実態に合わせた指導を行うことができた。また、校外学習等、日々の活動の中で指導を継続して行うことができた。
	2 児童生徒の個性の伸長と仲間づくり及び人権意識の高揚	(1) 両部門の狙いをふまえつつ、児童生徒の交流を深め、主体的な自治活動を推進するとともに、互いを尊重する心を育む。	B	B		◆いじめや問題行動の事象はなかった。引き続き児童生徒への丁寧な働きかけを通して問題行動等の未然の防止に努める。
進路指導部	1 保護者、関係機関等との連携と、組織的・計画的・継続的な進路指導の推進	(1) 卒業後の教育と、生活や保障についての研修を進める。	A	A	B	◆本校の進路指導部と連携し、夏季休業中に教職員施設見学研修を、10月にPTA共催で進路研修会を実施した。また、施設見学研修後には今後の進路指導や教育活動に生かすことをねらいに、校内全体で内容や感想を交流することができた。 ◆状況に応じて、『学校だより』で進路に関する情報を発信・提供した。 ◆舞鶴こども療育センターとの進路連絡（今年度は小6、中2対象）を実施し、進路に関して共通理解を図ることができた。 ◆毎年進路調査として担任が保護者との個別懇談会で進路に関する聞き取りを行って記録することとし、個々のニーズを把握することができた。 ◆『キャリアパスポート』の作成に「進路指導計画の作成のための課題表」の活用を検討している。さらに、今後どのように活用するか検討を進める。 ◆進路に関する情報の発信・提供をさらにを行い、個々のニーズに応じた取組を進める。
		(2) 進路に関する情報の収集と、発信・提供を行う。	A			
		(3) 進路指導の計画の作成のための課題表の活用を進め、小学部から中学部を見通した指導を行う。	B			
	2 進路を主体的に切り開く能力や態度の育成に向けた取組の推進	(1) 保護者、関係機関等との連携を図り、児童生徒の状況と課題を共通理解して日々の支援・指導を行う。	A	B		
	(2) 個々に応じた進路の実現に向けて、取組を進める。	B				

保健部	1 健康なところと身体をつくる取組の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。	A	A	A	<p>◆医療機関と連携し、健康状況や病状等の連絡を取り合い、児童生徒の体調や様子を把握することができた。</p> <p>◆月毎の保健目標に合わせて掲示物を貼り、養護教諭が担任と連携し各学級で必要に応じて保健指導を行った。</p> <p>◆検診の時にはスムーズに受けることができるよう事前学習を行った。また、元氣玉の取組を行って検診を受けることへの意欲を高めるようにした。</p> <p>◆毎月、月毎のテーマに沿った「ほけんだより」を発行した。</p> <p>◆「冬休みのくらし」や「大きくなるっていうことは」の全体指導を行った。</p>
		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。	A			
		(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識を身につけ病気を回復・改善できる力を育てる。	B			
保健部	2 元気で安全な楽しい学校生活の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。	A	A	<p>◆安全点検を実施し、安全な環境づくりに取り組んだ。(年間3回)また、学校薬剤師による環境衛生検査を計画的に行った。</p> <p>◆「心肺蘇生法研修会」や「感染予防研修会」「子どもの食事を学ぶ研修会」(PTA共催)を実施し、教職員の意識高揚を図ることができた。</p> <p>◆「動物ふれあい学習」を実施し、元気で楽しい学校生活を送ることができるよう取り組んだ。</p>	
		(2) 健康安全、医療的ケア等の教職員の研修を進めることにより、児童生徒の健康安全への意識高揚を図る。	A			
研究部	1 児童生徒の実態や課題に応じた授業を実施するための研究の推進	(1) 児童生徒一人一人の実態把握を行い、指導目標や内容を明確化し、自立活動の指導の工夫や改善を行う。(研究)	B	B	B	<p>◆令和6年度研究テーマ「ひとりひとりの教育的ニーズや障害特性を踏まえた自立活動の充実」と設定し、研究を進めている。</p> <p>◆1学期には、自立活動について全教職員が学ぶ研修を実施することができた。今後は、実態把握のポイントについて理解した上で</p>
	2 教職員の専門性向上のための研修の推進	(1) 授業改善と専門性の向上のための研修会を行う。	A	B		

研究部 【再掲】	2 教職員の専門性向上のための研修の推進【再掲】	(2) 個別最適な学びを実現するためにICT機器や先端技術を活用した授業実践法を学ぶ。	B			行永版自立活動シートを作成し、3学期には各学級の自立活動の授業を公開し学び合うための全体研修を行った。 ◆研修報告会や各学級の児童生徒の実態交流会を実施することができた。 ◆夏季にICTの研修会を実施した。
情報広報部	1 ICT機器及びソフトウェアの活用推進	(1) ICT機器及び校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。	B	B	B	◆ICT機器の整理整頓を行った。またICT機器の使用について適宜周知やサポートを行い、保守管理に努めた。 ◆GIGA端末のOSメジャーアップデートや充電器ケーブルの断線に対応した。 ◆共有ファイルの容量を適切に管理し、業務に運用することができた。 ◆保守管理や効率の良い使用のため、貸出簿の利用をさらに促進する必要がある。 ◆リモートのシステム構築ができた。 ◆使用頻度が多くなり機器の故障があった。 ◆情報フェスでは、showとworkshopを開催し、気軽に参加して、聞いたり触ったりする研修会となった。 ◆授業や校務に役立つ内容についての情報ミニ研修会を月1回程度開催することができた。 ◆DLCの研修動画について周知した。 ◆校内でTeamsやFormsの活用がさらに広まった。 ◆年度当初にセキュリティポリシーを全体で確認し、インシデントにかかわる事象とその対策について管理者より周知し、対応できた。 ◆新しいHP担当へ、HP作成に関する研修を年度当初に行い、継続した運営を行うことができた。
	(2) ICT機器及びソフトウェア活用に関する研修の実施やサポートを行い、ICT機器の活用を促進する。	A				
	(3) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。	B				
	(1) ホームページの保守管理を行い、円滑に運営、閲覧できるようにする。	A	A			
2 ホームページからの情報発信の推進	(2) ホームページの作成や更新を適宜行い、内容を充実させる。	A		A		

情報広報部 【再掲】	2 ホームページからの情報発信の 推進【再掲】	(2) ホームページの作成や更新を適宜行い、内 容を充実させる。【再掲】	A	◆日々の生徒の様子をその都度発信すること で、閲覧数が増えた。また修学旅行中の様 子をタイムリーに発信することができた。 ◆病弱のカテゴリーを追加した。 ◆学級や分掌などいろいろなところから発 信し、HPが充実できるとよい
学校関係者 評価委員会 による評価	① 医療機関との連携・協働という地の利を生かし、児童生徒にとっての「安心・安全」な学校づくりと外部の人的資源を有効に活用し、児童生徒の「学び」の充実に努めていると評価している。 ② 近隣小学校・中学校との交流及び共同学習や「居住地」校交流に加え、さらに、校内においても、ICT環境を整備し「重度重複障害」部門と「準ずる教育」部門との部門間交流を積極的に進めていることを評価している。 ③ 「行永再発信」ワークショップで出された様々な提言などを積極的に学校の諸取組に反映させ、行永分校の魅力をさらに創出し、地域に開かれた学校づくりに努力してほしい。			
次年度に向 けた改善の 方向性	① 医療機関との連携・協働の下、児童生徒の教育的ニーズに適切に応える「個別最適な学び」の一層の深化を図る。 ② 「交流及び共同学習」及び「居住地」校交流、「部門間交流」の質的充実を図り、地域人材を含めた外部の人的資源を有効に活用する。 ③ ICT機器を活用し、授業改善を図るとともに、創意工夫ある教育課程のさらなる編成に努める。			